

フライングディスク
新型コロナウイルス感染症対策

1 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせることを。

- ・体調がよくない場合。(例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- ・大会参加日前5日以内に新型コロナウイルス陽性判定を受けた方と濃厚接触がある場合。

2 感染予防策

- ・競技者並びに、関係者の健康面を配慮し、原則として保護者・引率者・介助者等の関係者のみの観覧とする。

3 競技参加者

- ・会場内は、マスクを着用し、お互いに距離（できるだけ2 m以上）をとり（介助者等は除く）、大きな声での会話（発言も含む）は控えること
- ・会場内ではハイタッチや握手等の身体接触を避けること
- ・1サイト/1団体の組み合わせで実施することとする
- ・出場者は息苦しい場合にマスクを外して試技を行うことを認める

4 競技スタッフ

スタッフは、全員マスクを着用し、他者との距離（できるだけ2m以上）をとり、実施すること

招 集…フェイスシールド、使い捨て手袋（事務局で用意）を着用すること

誘 導…使い捨て手袋（事務局で用意）を着用すること

記 録…使い捨て手袋（事務局で用意）を着用すること

表 彰…フェイスシールド、使い捨て手袋（事務局で用意）を着用すること。バンザイは無しで拍手のみ。

競技審判

<アキュラシー>

- ・ディスクに触れる機会のある副審、ディスク渡し係、ディスク渡し補助係、ディスク回収係は使い捨て手袋（事務局で用意）を着用すること
- ・回収されたディスクは、アルコール消毒を実施すること
- ・出場者から比較的近い位置で業務にあたる主審、記録係、記録補助係、ディスク渡し係、ディスク渡し補助係はフェイスシールドを装着する
- ・ディスク回収係は息苦しい場合にマスクを外して業務にあたることを認める
- ・スタッフは競技中の「○投目」、「ナイスゴール」、「惜しいです」等の言葉かけについては通常の会話の音量で行う

<ディスタンス>

- ・ディスクに触れる機会のある副審、ディスク渡し係、ディスク渡し補助係は使い捨て手袋（事務局で用意）を着用すること
- ・回収されたディスクは、アルコール消毒を実施すること
- ・副審は、息苦しい場合にマスクを外して業務にあたることを認める。ただし、計測等、他のスタッフとの距離が近くなる場面ではマスクを着用することとする。
- ・出場者から比較的近い位置で業務にあたる主審、記録係、記録補助係、ディスク渡し係、ディスク渡し補助係はフェイスシールドを装着する。
- ・スタッフは競技中の「○投目」、等の言葉かけについては通常の会話の音量で行う

※この感染症対策については、特定非営利活動法人日本障害者フライングディスク連盟の監修により作成をしています。

※今後も、新型コロナウイルス感染症の動向を予見することは困難な状況です。

上記の対応は、現時点のものとなっておりますので、今後の状況に応じて変更等があり得ることにご留意をお願いいたします。